



平和憲法を守ろう



2014年12月14日、衆議院選挙が終わりました。結果はご承知の通りです。

この原因は、立法・司法・行政の三権を握っている政府が、第四の権力と言われるマスコミまでも総動員して、愚民政策を採り続けた結果、国民の洗脳に成功してきた事です。愚民政策の根本は、日本の教育制度に仕組まれた重大な欠陥です。ディベートを除外してある事です。自分の頭で考えよとは、先覚者の教えですが、教育制度の変革、ディベートの取り入れは実現出来ませんでした。我々は学習会や各種の集会に、これを強調するだけでなく、日常生活でも教育制度の改革を、発言し続けましょう。

ディベートはルールのある理論闘争で、特定の論題を肯定側と否定側に分けて、理論的な考え方を訓練する教育です。

ディベート除外の根本原因は、徳川封建制度から、1868年

の明治維新をへて、後進の資本主義国に変わった日本が、欧米の植民地にされる危機を逃れるために、文明開化・殖産興業・富国強兵・滅私奉公をスローガンにして、ひたすら欧米に追いつけ路線を走ったためです。革命と開国で明治初めの国内には、経済的にも大混乱が起きました。国内が貧しく有効需要は乏しいため、日本は武力を背景にして、朝鮮・中国等に押売貿易を強行し、日清・日露戦争を起しました。

1945年に終わった15年戦争もその延長でした。

基本的な人権や政策への論議は、政府に好まれず、国民は政府の指示通り働き続ける事を強要され、参政権への制限も露骨に続けられました。ディベート除外の愚民政策がその柱です。

太平洋戦争で唯一の収穫は、平和憲法です。憲法改悪阻止の国民運動を続けましょう。

企画編集委員 真鍋 知巳 (新社会党愛媛県本部委員長)